総合内科・総合診療科 / 検査部

OKAYAMA UNIVERSITY HOSPITAL 1870

コロナ後遺症患者における血中コロナウイルス抗体価の有用性

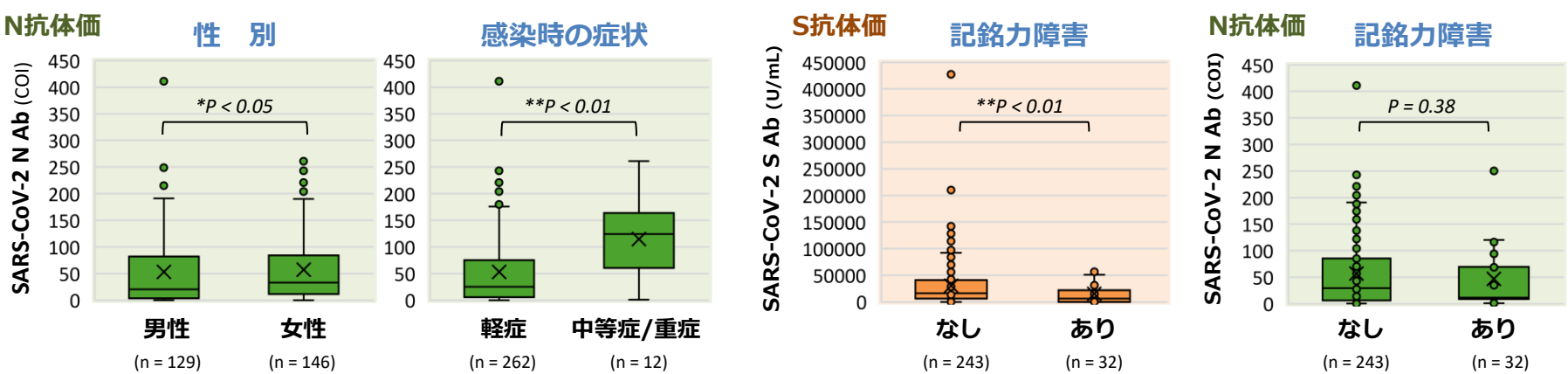
研究の背景：コロナ後遺症では、倦怠感や記憶力の低下など、さまざまな症状が続くことが知られています。
これらの症状は主に患者さんの自覚に基づいて評価されており、客観的に状態を把握できる指標は十分に確立されていません。
本研究では、**後遺症患者血中のコロナウイルスに対する抗体価**に着目し、臨床的特徴との関連性を検討しました。

方法：2023年6月～2024年11月に当院コロナ・アフターケア外来を受診された、**オミクロン株期の感染によるコロナ後遺症患者**のうち同意の得られた **275**名（女性146名・男性129名：中央値41歳）を対象に、血清中に存在する**SARS-CoV-2ウイルス**に対する**抗スパイク（S）抗体**および**抗ヌクレオカプシド（N）抗体**の血中濃度を測定し、臨床症状や背景因子との関連を解析した。

主な結果とその解釈：

- 血中S抗体の存在は、ワクチン接種歴とコロナ感染歴の両者を反映するが、N抗体の存在は、コロナ自然感染歴のみを反映する。
- コロナ後遺症患者の血中S抗体価は、ワクチン接種回数と関連して高値となったが、時間経過とともに抗体価は低下した。
- 一方、**血中N抗体価は**感染の既往を示し、**感染時の重症度が高いコロナ後遺症患者および女性患者で上昇**するが、感染から経時的に（約 -0.3%/日）低下した。
- **血中S抗体価が低い**コロナ後遺症患者では、**記憶障害（ブレインフォグ）の症状や生活の質（QOL）の低下**が認められた。

血中S抗体とN抗体両者を評価することで、感染急性期の背景・コロナ後遺症の症状の特性を客観的に評価できる可能性がある



Marina Kawaguchi, Yasue Sakurada, Kazuki Tokumasu, Yuki Otsuka, Yasuhiro Nakano, Yui Matsuda, Hiroyuki Honda, Daisuke Omura, Nobuyoshi Matsuki, Masanori Furukawa, Akihito Higashikage, and Fumio Otsuka: *Clinical utility of SARS-CoV-2 antibody titers in the management of patients with long COVID infected with the Omicron variant.* ***British Journal of Biomedical Science 83:16255, 2026****. doi: 10.3389/bjbs.2026.162552026.*